「働き方改革推進パッケージ1.1 ~チャレンジ!働き方改革~」

令和7年7月 福島市教育委員会

スローガン:「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現に向けて

学校種

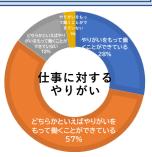
小学校

中·特支学校

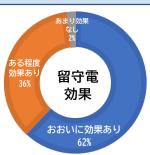
全平均

(年平均)

令和6年度の取組状況









その他の調査 結果は下記の QRコードか らご覧くださ いし



○ 市内全平均として24.2%から21.8%へ2.4ポ イント減少し、成果が現れ始めている。

教職員の時間外在校等時間 月45時間以上の実態

R5

※技能主事を除く

R6

20.7%→18.2% 2.5ポイント減

29.6% → 27.0% 2.6ポイント減

24.2% 21.8% 2.4ポイント減

● しかし、引き続き教頭職の時間外在校等時間が 長いことが課題である。

○ 日課表の見直し、留守番電話の活用は、全市をあげて推進されている。授業改善に向けてさらなる推進が必要である。

未来に向けた「 | 0」のチャレンジ | . |

- 時差出勤制度の試行:▶ 早出遅出出勤によるライフステージや子ど も、学校の実情に合わせた働き方
- #2 インターバル11時間: ▶ 退勤から翌日出勤まで休息時間を11時間 以上(特に教頭職) 以上確保するための校内体制を構築
- #3 ICTのさらなる活用: ▶ 校務DX化の推進によるさらなる業務改善
 - 職員会議資料等のペーパーレス化100%
 - 校務用端末の更新による業務効率化
- #4 教育課程の見直し: ▶ 標準時数を上限とした授業時数
 - > 日課表の見直しの検討
- ▶ 子どもを主語にした授業づくりの推進 #5 授業の質的改善:

 - (教師が「教える」授業から子どもが「学びとる」授業へ)

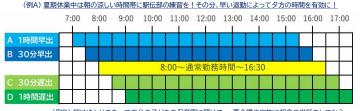
- #6 部活動指導の負担軽減:▶ 部活動指導員の拡充
 - > 休日部活動の地域展開の種目拡充
- #7 働き方改革モデル校の ➤ 民間コンサルティングと連携し、伴走型 成果共有: 支援によるモデル校の成果を広く共有
- #8 企業等との連携:
- ▶ 民間プール施設等を活用した水泳授業の実践
- ▶ スク・サポ、ブカ☆サポなど地域(企業や 市職員他)や大学等の人材の積極的活用

▶ 定期テストの在り方や評価2期制の検討

- 評価の検討:
- #10 教職員等の意識改革:
- 各学校の効果的な取り組みを共有
- ▶ 保護者等への情報発信、理解の促進
- ※ 給食費会計処理の効率化については国の学校給食に関する動向を踏まえて対応

時差出勤の試行(勤務時間区分はABCDの4パターン)

○勤務時間の調整により、教職員のワークライフバランスの取れた生活を実現 (例A) 夏期休業中は朝の涼しい時間帯に駅伝部の練習を!その分、早い退勤によって夕方の時間を有効に!



(例D) 朝はゆとりをもって自分の子どもを保育園に預けて・・・要介護の家族に朝食の世話をしてから・・

インターバル11(イレブン)大作戦

○退勤時間から翌日出勤時間までの休息時間を11 時間以上確保することで心身の健康を(特に教頭職)



○そのための校内の協力体制、分担計画を協働で

校務DX化の推進・加速

○校務用端末およびネットワークの更新を機会に、 校務DX化を加速

- (例)「データ共有」や「共同編集」により、互いに協 議し合いながら会議資料や学習指導案を効率的 に作成する。~協議終了時には指導案完成!~
- (例) カレンダー共有で時間を有効活用 Googleカレンダーで個人の予定や 校務スケジュールを管理し打合せや 面談を効率的に調整、実施

